

小児領域の内視鏡手術審査基準

※採点はすべて 0.5点刻み

総論

I -1 総合評価：手術の進行 (狭い体腔内での安全性)	附則
手術の進行が計画的かつ円滑であり、安全性が確保されている	10.0 点 6.0 点 3.0 点 0.0 点
手術の計画性、円滑さに改善すべき点があるが、安全性に大きく影響していない	
手術の計画性、円滑さに改善すべき点があり、安全性に対する配慮に欠けている	
手術進行が、計画的かつ円滑とは言えず、安全性に欠けている	

I -2 総合評価：助手との連携	附則
助手との連携が良好で、手術が順調に進行する	6.0 点 3.0 点 0.0 点
助手との連携が時に不十分となり、修正を要する	
助手との連携が悪く、手術時間の延長や出血が認められる	

II -1 総合評価：術者の主体性	附則
手術操作は、術者の意図のもとに行われており、助手はそれを補助している	4.0 点 2.0 点 0.0 点
手術操作は、術者の意図のもとに行われているが、時に助手が主導することがある	
手術操作は、助手の意図のもとに進行している	

II -2 総合評価：術者の指導性	附則
助手やスコピストを適切に指導し、円滑に手術が進行している	4.0 点 2.0 点 0.0 点
時に助手やスコピストの不十分な操作を修正していない	
助手やスコピストの不十分な操作を修正せずに手術が進行している	

III 器具の干渉		附則
スコープ・器具が干渉せず術野が展開でき、手術操作に支障がない	4.0 点	ポートの配置と重なるが、干渉にのみ特化して判断する。 干渉回数に関する「時に」は5回前後とする。
スコープ・器具に時に干渉があり、手術操作に支障をきたしている	2.0 点	
スコープ・器具の干渉がひどく、手術が進行しない	0.0 点	

IV スコープの操作		附則
スコープの操作は、手術の操作にあわせて適切に対応できている	6.0 点	「モニター中央で手術が行われている」「スコープの天地が安定している」「スコープの汚れがなく手術が行われている」という点を評価する。 「時に」の目安として5回前後とする。 手術に支障がない場合は減点しない。 鉗子の出し入れに不具合がないときはズームアウトについては評価しない。
スコープの操作は、手術の操作に合わせて適切に対応できているが、時に術野が不良となっている	3.0 点	
不適切なスコープ操作のまま手術が行われている	0.0 点	

V 術野の展開		附則
術野展開のための鉗子(レトラクター、助手鉗子)の使用が良好である	4.0 点	スネークリトラクターのブランドの開閉はこの項目で減点対象とする。 スネークリトラクターの面の向きも原則に従う。 小さな患児に対する大きなりトラクターは減点する。
術野展開のための鉗子の使用法に改善すべき点がある	2.0 点	
術野展開のための鉗子使用法が適切でない	1.0 点	
組織損傷のために有意な出血をきたしている	0.0 点	

VI 術者の器具の使用法		附則
鉗子選択が適切であり、またその使用法も適切である	4.0 点	先端の細い鉗子による臓器損傷のおそれのある把持などを含む。
鉗子選択または使用法の改善により、手術時間の短縮が可能である	2.0 点	
非優位側の鉗子の選択・使用法に改善の余地がある	2.0 点	
不適切な鉗子選択または使用法により、出血や周囲臓器の損傷が認められる	0.0 点	

VII エネルギー源の選択と使用法		附則
エネルギー源の選択、使用法とも適切である	8.0 点	
エネルギー源の選択、または使用法が不適切なことがある	4.0 点	
エネルギー源の選択、または使用法の誤りに起因する出血、周囲臓器の損傷が認められる	0.0 点	

VIII 手術手技(出血)		附則
血管の同定、剥離、切離が適切である(術中に不用意な出血がない)	4.0 点	
血管を同定することが困難で出血をきたしているが、適切な止血操作で迅速に出血がコントロールされている	3.0 点	
血管の同定、剥離、切離、止血操作に起因する手術時間の延長が認められる	1.0 点	
血管の同定、剥離、切離、止血操作に明らかな改善点が指摘できる	0.0 点	
ブラインド焼灼、ブラインドクリッピング	落第	

総論合計点数 54点

各論

I ポート挿入・抜去		附則
ポートの選択、留置位置、留置方法、抜去法とも適切で安全である	4.0 点	実際の損傷はなくとも、危険な操作であれば減点する。
ポートの選択、留置位置、留置方法、抜去法に改善すべき点があるが適切に処理されている	2.0 点	挿入時に先端が見えない場合は減点する。
ポートの選択、留置位置または留置方法に起因する出血で手術時間の延長がある	0.0 点	なお、改善すべき点には、ポート挿入に要する時間を含む。
ポートの選択、留置位置または留置方法の誤りにより修復を要する臓器損傷をきたしている	落第	

II 胃脾間膜・腸脾間膜の処理		附則
脾下極に沿って安全かつ適切に切離が行われている	4.0 点	
切離の方向・位置は必ずしも適切ではないが、安全に処理が行われている	2.0 点	
非全層性の胃・結腸損傷がある	0.0 点	
全層性の胃・結腸損傷がある	落第	

III 脾の剥離と授動（後腹膜・横隔膜からの剥離）		附則
後腹膜・横隔膜からの脾の剥離と授動が、安全かつ適切に行われている	6.0 点	脾の剥離層・授動した脾の適切な取り扱いはこの項目で評価される
後腹膜・横隔膜からの脾の剥離・授動の円滑さに改善すべき点がある	4.0 点	
後腹膜・横隔膜からの脾の剥離と授動が不適切である	2.0 点	
修復を要する横隔膜損傷がある	0.0 点	
後腹膜臓器（腎・副腎など）の損傷がある	落第	

IV 脾門部の処理（方法は問わない）		
1) 安全な血管の処理		附則
脾門部の血管の処理が、安全かつ適切に行われている	8.0 点	ステイプラーの選択、方向、先端の確認、回数などはこの項目で評価する
出血は見られたものの、適切に止血された	6.0 点	
出血は見られないが、安全性に欠ける	4.0 点	
出血が見られ、止血に難渋した	0.0 点	

V 脾尾部の確認		
2) 脾尾部の確認		附則
脾尾部の確認操作を適切に行っている	4.0 点	個々の操作に際しての脾尾部の確認はこの項目で評価する
脾尾部の確認操作が不十分である	2.0 点	
脾尾部の確認を行っていない	0.0 点	

VI 脾の収納		
3) 脾の収納		附則
腹腔内での脾臓の取り回しが愛護的で、袋への収納も滞りない	6.0 点	脾の収納時の被膜・実質損傷はこの項目で評価する
腹腔内での脾臓の取り回しに無理があり、袋への収納にも滞りがある	3.0 点	
腹腔内での脾臓の収納の際に、他臓器の損傷がある（修復不要）	0.0 点	
腹腔内での脾臓の収納の際に、他臓器の損傷がある（修復必要）	落第	

VI 脾に対する愛護的操縦		附則
被膜の損傷はない	8.0 点	他臓器に対する非愛護的操縦もこの項目で減点する
被膜の損傷はないが、非愛護的操縦がみられる	6.0 点	
1～2か所の被膜損傷があり、出血を認める	4.0 点	
多数の被膜損傷がある	0.0 点	
脾臓の実質損傷	落第	

各論合計点数 40点

エネルギーデバイスの使用法に関しては、各論の各項目でも減点する

単孔式 Reduced Port Surgeryの場合も本審査基準に則って審査する

VII 縫合と結紮		附則
縫合・結紮が術者の意図するとおり、正確かつ迅速に行われている	6.0 点	体内結紮を行っている場合には、その技術の評価を行うが、体外結紮のみでも可とする。 針を持った持針器の術野外への脱出は減点する。
針のマウント、運針、縫合の深さなど明らかな改善点が指摘できる、あるいは結紮に不備がある	4.0 点	
縫合・結紮技術が不十分である	2.0 点	
縫合・結紮時における修復を要する臓器損傷	落第	

縫合と結紮合計点数 6点